

都市再生整備計画 事後評価シート原案
蓮田市中心市街地地区

令和5年12月

埼玉県蓮田市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県		市町村名	蓮田市		地区名	蓮田市中心市街地地区		面積	205.9ha			
交付期間	令和元年度～令和5年度		事後評価実施時期	令和5年度		交付対象事業費	361百万円	国費率	0.4(都市再生整備計画事業) 0.5(まちなかウォーカーカブル推進事業)				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	事業名 高質空間形成施設(まちなかウォーカーカブル推進事業):市道4号線歩道高質化事業、市道51号線歩道バリアフリー化事業、歩行者・自転車道路整備事業、街路灯整備事業 地域生活基盤施設(まちなかウォーカーカブル推進事業):上町ふれあいの森整備事業、緑地整備事業、駐車場整備事業									
			提案事業	まちづくり活動推進事業(都市再生整備計画事業、まちなかウォーカーカブル推進事業):産・学・官連携によるのくぼ通り周辺商店街活性化事業 事業活用調査(まちなかウォーカーカブル推進事業):事業効果調査									
	当初計画から削除した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			基幹事業	高質空間形成施設:歩行者道	概算設計を実施し、整備手法等について検討を行ってきたが、近年特に多発している台風水害による被害報告を数多く受けるエリアのため、排水機能の強化等も含め再検討の必要性が出てきた。また、蓮田市立地適正化計画(令和4年3月公表)における災害リスク評価等、災害危険性や安全面を考慮すると歩行空間としてにぎわい創出を図るのが困難であるため、本計画から削除した。			本計画の指標は、「駅周辺の交流拠点・歩行系道路に対する満足度」及び「商店街通行量」のため、影響しない。					
	新たに追加した事業		提案事業	まちづくり活動推進事業:商店街アプリ事業	平成30年度末から市と商工会で打ち合わせを行い、令和元年度には、アプリの業者を集めてプレゼンを行うなど、事業実施に向けて検討を重ねてきた。しかし、マイナポイント事業などの他事業への対応に伴う事務量の増加や商店経営者の高齢化もあり、計画期間内の事業着手が困難という結論に至ったため、本計画から削除した。			本計画の指標は、「駅周辺の交流拠点・歩行系道路に対する満足度」及び「商店街通行量」のため、影響しない。					
			基幹事業	高質空間形成施設(まちなかウォーカーカブル推進事業):蓮田駅東口トイレ整備事業	蓮田駅東口の公衆トイレは多目的トイレに必要とされる設備(オストメイトやベビーベッド等)が不十分な状況であり、トイレ入口も階段となっていた。そのため、トイレの設備強化や入口の階段をスロープにすることで、バリアフリー対応のトイレに改修し、駅前周辺利用者等がより快適に使用できるようにするため、新たに追加した。			本計画の指標は、「駅周辺の交流拠点・歩行系道路に対する満足度」及び「商店街通行量」のため、影響しない。					
	高質空間形成施設(まちなかウォーカーカブル推進事業):市道53号線歩道バリアフリー化事業	都市再生整備計画に基幹事業として位置付けのある「市道51号線歩道バリアフリー化事業」に交差して接続する市道53号線について、歩道植樹帯の撤去によるゆとりある安全・快適な歩行空間の確保や、カラー舗装化により高質化することでウォーカーカブルな空間整備に努め、景観の向上を図るため、新たに追加した。			市道51号線と一体的な整備の位置づけとなるため、指標には影響しない。								
	高質空間形成施設(まちなかウォーカーカブル推進事業):堂山公園トイレ整備事業	本地区はウォーカーカブル空間の整備を進めているが、高齢者・障がい者・子ども連れなど誰もが利用できる公衆トイレは、ウォーカーカブルな空間形成には不可欠な施設であるため、堂山公園トイレに多機能トイレの設備を整備し、区域全体の滞在環境の向上を図るため、新たに追加した。			本計画の指標は、「駅周辺の交流拠点・歩行系道路に対する満足度」及び「商店街通行量」のため、影響しない。								
	交付期間の変更		当初	令和元年度～令和5年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			—					
	変更		—			—			—				
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	駅周辺の交流拠点・歩行系道路に対する満足度	%	43.4	H30	55.4	R5	モニタリング	57.5	○	あり	歩行者・自転車道等の基盤施設及び駅前のトイレ施設等の整備効果により、駅周辺の各種施設に対する満足度が向上したため目標値を達成した。	—
								評価値			なし		
指標2	商店街通行量	人	1,379	H30	1,441	R5	1,231	×	あり	●	コロナ禍の影響による商店の撤退・廃業やリモートワーク・オンライン授業の拡充に伴う通勤通学形態の変化等を受け、のくぼ通りの通行量の増加が図られず、目標値を達成できなかった。	—	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	人間総合科学大学文化祭の入場者数	人	349	H30	/	モニタリング	976	/	/	コロナ禍の影響により4年ぶりに開催された文化祭の入場者は大幅に増加している。大学においては活力の回復の兆しが見えており、今後、のくぼ通り商店街の活性化への波及効果が期待される。	—	
							評価値						
4) 定性的な効果発現状況													
・市道4号線歩道高質化事業や市道51号線・53号線歩道バリアフリー化事業、歩行者・自転車道路整備事業等の整備により、歩道幅員が拡幅され、歩行者や自転車が安全で円滑に交通できる道路環境の改善が図られた。 ・蓮田駅東口トイレ整備事業や街路灯整備事業等により、駅周辺の道路の美装化が行われるとともに、高齢者・障がい者・子育て世代をはじめとする誰もが安全に安心して、歩いて外出できる環境の向上が図られた。 ・上町ふれあいの森整備事業や緑地整備事業等により、中心市街地に緑地が整備され、市民が憩える場が創出された。													
5) 実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	官民連携による取組	再開発区域に隣接した住民の方々で構成された蓮田駅西口地区まちづくり協議会において、駅周辺に適したまちづくりのルールや手法について検討している。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 蓮田駅西口地区まちづくり協議会の活動を継続し、住民参画のまちづくりを推進する。				
	持続的なまちづくり体制の構築	蓮田駅西口地区まちづくり協議会と連携して、中心市街地の活性化に取り組んでいく。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 蓮田駅西口地区まちづくり協議会の会員と、まちづくりについて定期的に意見交換し、今後の事業に活用する。				

様式2-2 地区の概要

蓮田市中心市街地地区(埼玉県蓮田市) 都市再生整備計画事業の成果概要

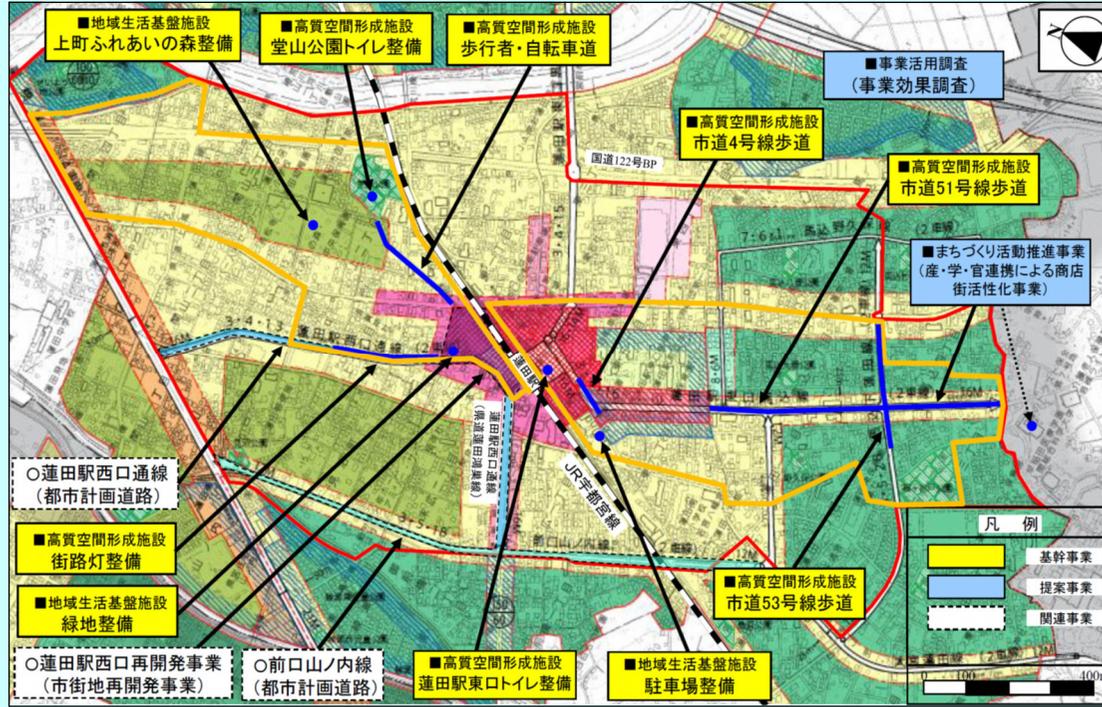
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標 まち・ひと・みどりが交流するところ豊かなまちづくり 小目標① アクセス道路の高質化による中心市街地の利便性向上と回遊性向上 小目標② みどりの交流拠点としての機能強化による中心市街地のにぎわい促進	駅周辺の交流拠点・歩行系道路に対する満足度 単位: %	43.4 H30	55.4 R5	57.5 R5
	商店街通行量 単位: 人	1,379 H30	1,441 R5	1,231 R5



堂山公園トイレ整備 (整備中)



上町ふれあいの森整備



歩行者・自転車道



市道4号線歩道



街路灯整備



緑地整備



蓮田駅東口トイレ整備



駐車場整備 (整備中)



市道53号線歩道



市道51号線歩道

まちの課題の変化	・歩行者・自転車道路の整備事業や上町ふれあいの森等の交流拠点の整備により、まちなかを快適に移動できるハード面の環境整備が整いつつあるが、中心市街地の賑わいや歩行者の回遊を促進するために、産・学・官連携により、大学や事業所、地域(商店街・商業主及び住民)と連携した事業を今後も推進する必要がある。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	・整備を実施した道路等のインフラ施設について、環境美化活動等で地元と協働しながら、適切に維持管理を行い、施設の状態を良好に保つことで、継続的に整備効果を維持していく。 ・中心市街地に緑地や駐車場を整備することによる環境整備やアクセス向上により、まちなかでの滞在時間や交流人口の増進、利便性の向上を図る。 ・産・学・官連携により地域との連携を深めるとともに、のくぼ通り周辺商店街の活性化事業や大学等の教育機関と連携したイベントの開催により、中心市街地の賑わいや回遊性の創出、交流人口の増加を図る。